

# 日本一年統一集会に結集しよう

農学生一人一人へのかけ

7/8

六月二十日の教授会回文において、教授会の示した設計案は私達が当初から要求していだものとは次の点でまたく異質のものだった。すなはち農学部の社会における有効性回復という再編の理念にのどた、私達が自ら勉強してゆける環境を施設的に保証するものとして校舎と言える力では決してない。農学部学生と共にかべ取締しようと、節りのついた箱を私達は求めただけつか?

否、直接的には明治大学農学部の有効性を發揮しうる、全体としては教育の保証、環境の保証、進路の保証等すべて吸収しうる農学研究の場として要求しなければきた。

ところが教授会は私達学生が積極的・主体的にとりくんで「再編問題の一環として位置づけられた校舎問題にきわめて消極的であるばかりか、理事会に同情を示すなどあまりの態度をとり、5・30回文の、学生と連帯して戦うやうとも約した姿勢とそれに対する私達の期待をさげとにつけられました。

私達はこのやうな教授会案としてそれを提出した教授会の姿勢を徹底的に、鋭く批判してやかなければなりません。そして41年度に予算化しづながら、だくさん理由になつて理由をもつて現在まで建設を意識的にほして理學会に抗議し、前期分としての農校舎の着手工を再度、要求してやればならない。また、この問題に参加していく同学友や、意識的不参加の人達に、党派をこねて、強力な闘争を共に展開してゆく力が必要かかる。最後に、これまで一年期の運動の総括として、来学期への運動の力強化と、より多くの一年生統一集会に一年だけではなく二・三・四年までの学友に参加を求めてい。